

近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.39 2022年1月発行

2022年新しい年が始まりました。

日本では少し落ち着いた感のあった新型コロナウイルス感染は、年末から世界中で拡大し、その流れは日本にも及んで来ました。気が抜けない日々です。お亡くなりになった方とご遺族にお悔やみを申し上げ、先の見えない戦いを強いられる医療関係者、介護や保育などに携わる全ての方々に感謝いたします。

我が家では10年ほど前から外出が叶わなくなった母を喜ばせるために、庭にチューリップを植え始め、今では毎年恒例になりました。花が一斉に咲くと、お散歩中の近くの保育園児たち、買い物や通院の高齢者の方々、皆さんが大変喜んでくださいます。誰かのためにと思いついたちょっとしたことが、今では自分自身の楽しみになっています。

コロナ禍で不自由な生活を強いられている方、介護に疲れている方々にも、小さな楽しみを見つけて「辛抱」と「小さな幸せ」の共存をお勧めします。一人で抱え込まずに「聞いて！本当に大変！」「ちょっと楽しいことがあったの！」「どうぞ声に出して行きましょう。

皆様にとって本年が明るい年になるように願ってやみません。本年もよろしくお願いいたします。



中野区構造改革実行プログラム

少子高齢化や新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響、区有施設が更新時期を迎える影響、児童相談所や子ども・若者支援センターの新設・運営、すこやか福祉センターの増設等、区の財政負担は膨らんでいきます。区は新たな行政需要に対応するため「中野区構造改革実行プログラム」を策定しました。

今後、区民活動センター運営のあり方、社会福祉協議会との協働、高齢者会館のあり方、区立公園の施設配置・管理の検討等、多くの改革に取り組む予定です。

区有施設整備計画

中野区の区有施設の6割以上で老朽化が進み、半数は単独施設です。区は令和3年10月、区有施設整備計画を策定しました。その計画の中には児童館も入っています。

田中前区長の児童館全廃計画の中で、私は一貫して「児童館を無

くさないで欲しい」と訴え続けてきました。酒井区長により児童館の全廃にストップはかかりましたが、学校内にキッズ・プラザを配置する計画に変更なく、現在12のキッズ・プラザがあり、中学校区に1施設の児童館の配置を計画しています。

今回、キッズ・プラザのある学校に隣接する児童館4館の廃止条例が議会に出され、1票差で否決されました。現在の議会構成では、議員の1票が区の政策を大きく変える結果となります。

賛成：立憲民主党・無所属9、共産党6、都民ファースト2、石坂、立石、近藤…計20票

反対：自民党8、公明党8、むとう、いながき、小宮山、竹村、吉田……計21票



私は、老朽化した建物の建て替えに巨額の費用がかかることを考え、そして何よりも児童館職員たちの声を尊重して条例に賛成しました。以下に私の賛成討論を記載します。

近藤さえ子の賛成討論(抜粋)

第85号議案 中野区立児童館条例の一部を改正する条例に賛成の立場で討論する。
朝日が丘児童館、新井薬師児童館、大和西児童館及び弥生児童館を廃止するための条例である。

田中前区長の放課後の子どもたちは学校内のキッズ・プラザに入れ、児童館を全廃する計画に対し、私は一貫して反対してきた。その後児童館を残すことを公約に掲げた酒井区長が就任、私は児童館機能を充実させることを目的に、以下のような質問を繰り返してきた。

1. 児童館職員の意見を良く聞くこと。
2. 需要の高い学童クラブは児童館に残し有効活用すること。
3. 児童館が近くにある学校には無理にキッズ・プラザを作る必要はないこと。

今回、諸般の事情を考えた結果、私はこの4つの児童館廃止に賛成することを決めた。

賛成の理由の1は財政面である。

キッズ・プラザ設置が広がる中、現在残っている18館の児童館を全て維持していく体力が今後も中野区にあるのか。1969年築の新井薬師児童館を始めとして4館の児童館は老朽化し建て替えが必要であり、それには1館5億円掛かると言われる。さらに維持管理費、新しい職員を育て、あるいは民間に委託するなど人件費等を考えても、キッズ・プラザを全校配置し、さらに現在の児童館を全て残すとなると、区民に財政負担が重くのしかかる。

賛成の理由2は、この議案が現場職員による決定であること。

以前児童館縮小や廃止計画が進む中、私は何度も現場の職員たちの声を聞いた。当時は全員が「児童館を無くさないで欲しい」と発言していた。しかし、今回職員の意見を伺うと「廃止しか選択肢はないのではないか」との返事であった。それは、この4館を廃止することも含め、今後の児童館のあり方を検討して決定したのは、「これからの児童館プロジェクト」等のメンバーとなった現場の職員だからである。

中野区が誇る児童館は単にその空間・建物ではなく、そこには学校に行けない子ども、悩みを抱える子どもや保護者を見守り、一緒に過ごしてくれる職員の存在がある。

多くの子どもたちと遊び、笑い、ある時は涙し、親たちを支え、区のくるくる変わる児童館のあり方の方針に翻弄されながらも、子どもたちや地域住民に愛され続ける中野区の児童館を死守してきた職員たちが出した結論「児童館数は減らしても中身を充実させていく」と言う考え方、私は、この現場の声を尊重したいと思う。

現場職員が決定した今回の4館の児童館を廃止する条例を私は支持し、賛成の討論とする。

私の議会報告

近藤さえ子は第3回および4回定例会で以下の質問をしました。



2021(令和3)年 第3回定例会

一般質問(9月14日)

1.再犯防止の取り組みについて

加害者の更生と保護は、一番身近な自治体が各ケースに対し適切な対応をするよう国から求められているが、一概に住居・仕事・医療・福祉の紹介を提供するだけでは難しい。

認知症に起因した万引きや、病気による生きづらさからの犯罪の再犯防止のためにどのような取り組みをしているのか。安心・安全な地域づくりを進めるにあたり、凶悪な犯罪の加害者への対応について、再犯防止の砦とも言える保護司への研修等に取り組むべきだと考える。

区長 犯罪や非行の防止、立ち直り支援を地域包括ケアの取り組みとして位置づけ、着実に進める。

2.生活援護課事務室の配置について

中野区有施設整備計画(案)によると、生活相談や自立支援は新庁舎に入り、生活保護は社会福祉会館で行うと示されている。区民の利便性やランニングコストを度外視して、職員の働きやすさに対する考慮もなく、なぜ、生活援護課を2分し別の場所に配置するのか説明いただきたい。

区長 生活保護受給者増加を見込み、ケースワーカーの執務スペースを確保するためである。



その後、議会・職員・区民等の反対により、生活援護課は全て新庁舎に配置されることが決定した。

決算総括質疑(9月24日)

1.窓口職員を新型コロナウイルス感染症から守る対策について

近藤 職員が日常業務で不安にならないよう継続的に新型コロナウイルス感染予防対策に努めていただきたい。

中谷職員課長 継続的に職場における感染予防を周知徹底していきたい。

2.スポーツ施設の対応について

近藤 昨年の決算では、スポコミの施設管理及び地域スポーツクラブの事業運営は、指定管理者との官民連携が妥当であるとしていたが、なぜ急に構造改革の対象になったのか。

古本スポーツ振興課長 官民連携の事業運営の観点から適正であると評価した。地域スポーツクラブは、区民が自主的に活動する団体の増加を考慮し区として支援していく。

近藤 本来の地域スポーツクラブの意義を見直し、区民の自主的な活動を支援し、指定管理料を抑えていくべきと考える。

古本スポーツ振興課長 効果的な事業運営と事業費の削減等につなげたい。

3.新たな機能を備えた児童館について

近藤 母子・父子家庭の子ども、障がいを持つ子ども等、家庭や生活環境が違って、温かい見守りの中で子どもたちの健全育成に寄与できる児童館となるのか。

細野育成活動推進課長 子どもたちを温かく見守る施設として運営していくと考える。

2021(令和3)年 第4回定例会

一般質問(11月29日)

1.権利擁護の推進について

高齢者への虐待が増えている。子どもの虐待防止は、児童相談所の新設、保健師3名・福祉職23名の配置等、今後手厚い体制で取組んでいくことになったが、高齢者虐待対応のセンターである福祉推進課には保健師等医療職の配置はない。

犯罪被害者等相談支援窓口、高齢者虐待は同じ福祉推進部福祉推進課が担当する。両事業兼任で1人、権利擁護の推進に寄与する常勤保健師を配置してはどうか。

区長 保健師を必要とする業務全体のバランスを勘案して、来年度会計年度職員の増員を検討している。

2.新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルスの第5波の中で、杉並区では8月に自宅療養者が1000人規模にまで急増し、高齢の同居家族への感染を恐れ、自営店舗で隔離療養し保健所に電話を掛け続けたものの繋がらなかった感染者が亡くなった。中野区では、どのような取り組みを行なったのか。

今後、第6波の可能性がある中、保健所内の情報共有や収集体制がより万全になるよう検証して頂きたい。

保健所長 感染者への対応、医療体制等について検証を行い、本定例会の委員会で報告を予定している。



<http://saekonikki.exblog.jp/>



日々の活動をお知らせしています。

11月20日 知っていますか?被害者のこと~聴いてみよう!被害者の声~

東京都と中野区共同主催の令和3年度犯罪被害者週間行事が開催されました。

被害者の代表として松井克幸氏、和田真理氏のお話がありました。被害者の方もコーディネーターを務められた帝京平成大学教授の大塚淳子氏も中野区の取り組みを褒めてくださいました。

区民、他自治体の支援者、被害者当事者、法務省関係の方等、多くの方が中野区の取り組みを応援してくださることを痛感し、感謝の気持ちに満たされました。

こえだ

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

11月30日 近藤正二告別式

11月23日96歳で永眠した父 近藤正二の告別式でした。

戦後「平和を考えよう」と学生仲間と『北原文化クラブ』を創設、25歳東京大学在学中に、地元の有識者に請われ中野区議会議員になり、半世紀にわたり地元の政治家として働きました。旅や登山が好きで、よく仲間と旅行し、地域の子どもたちを連れて遠足に行きました。

多くの方々に支えられた幸せな人生でした。

生前に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。



こえだ

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL&FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com

近藤 さえ子プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(5期) 趣味:テニス